

## 「茅葺きの変化と観光の意味」

寺田 憲弘

現代人のノスタルジーの対象となり、観光の目玉となっている茅葺き屋根の民家について、京都府旧美山町を調査地として、聞き取り調査をおこない。それを成り立たせていた村落の社会システムについて、地縁・血縁関係や、茅場となっていた里山を中心とした土地利用のあり方や、生業を含めた生活様式、そして、茅葺きの技術を担っていた職人の生活などを明らかにした。そして、茅葺き民家を成り立たせていた地縁・血縁関係が希薄化し、里山利用も衰退し、職人の数も少なくなりそれを維持することが困難になると同時に、茅葺き民家が非日常的存在となり、新たな観光的価値の発生する過程を示した。そして、町と町内の一地区が、村おこしとしての観光に取り組んだ過程を再構成し、それとともに、過疎山村における観光客誘致の意味について積極的に村おこしをしている地区とそれを拒否した地区の意見を比較し考察をおこなった。